第１学年　国語科学習指導案

児　童　１組　男17名　女14名　計31名
指導者　Ｔ１　虫壁 美知恵
　　Ｔ２　堀田　郁子

１　単元名　　よく見てかこう　「しらせたいな，見せたいな」　　（光村図書　１年下）
２　単元について
（１）目　標
　〇書こうとする題材に必要な事柄をよく観察して書くことができる。
　〇書いた文を読み返す習慣をつけ，違いを見つけることができる。
（２）指導にあたって
　子どもたちは，これまでに「書くこと」の学習として，「すきなもの，なあに」の学習では，自分の好きなものとその理由を２文で書くことを，「かけるようになったよ」の学習では，体験したことを思い出して３文程度で書き表すことを学習した。これらの学習を受けて，知らせたいことを相手により的確に伝えるためには，必要な事柄を取材して集めることが大切であることを学習させるために，本教材を設定した。今回，子どもたちが家の人に伝えようとする題材は，直前の生活科の校外学習で出会った愛農牧場のかわいい動物たちである。校外学習では，動物たちをスケッチし，観察の視点に沿って「見つけたよカード」に 簡単な言葉でメモをする。お家の人に知らせるという目的をもって，観察したことを文章に書くことで，書いて知らせる喜びや，自分が書いたものを相手が読んで理解してくれる喜びを体験できる学習材である。
　児童は，字を書くことを好み，形の良いひらがなを書ける子どもも多い。しかし，促音，拗音，長音や，助詞の「は」「を」「へ」を正しく使うことができない子どもも少なからずいる。文を書くことについては，前単元までの学習を生かして，日記を書いたり，生活科の学習で思ったことや気付いたことを文で表現したりしているが，句読点のないだらだらとした文や，主述の関係が不適切で理解しにくい文を書く子どもが多い。
　指導にあたっては，文章を書くことを苦手としている子どもたちの抵抗をできる限り少なくするために，はじめにカードに絵を描くことから始め，その絵への書き込みを文にするというように，スモールステップを踏んだ学習を組み立てる。そして，題材についてていねいに観察し，相手に伝える事柄を集めることが，より分かりやすい文つくりにつながることを感じ取らせていきたい。また,観察の視点としては，「色」「形」「大きさ」「触りごこち」「動き」など，具体的な視点を与え，五感を使って詳しく観察できるようにしたい。
（３）指導計画（８時間）
　第１次　知らせたいものを家の人や友達に知らせるために，よく見て分かりやすい文章を書くという学習課題を理解する。（２時間）
　第２次　知らせたいことについて，よく観察したことを絵に書きこむことができる。(２時間)
　第３次　絵のメモから文章をつくり，書く順番を考えながら文章に書くことができる。（４時間）本時は1/4
（４）評価規準
　〇　好きな動物や植物を見つけて，家の人や友達に書いて知らせようとしている。(関・意・態)
　〇　よく見て気付いたことを単語や簡単な文で書き表している。(書く)
　〇　教科書のモデル文を見て同じように書いている。(書く)
　〇　句読点や字の間違いなど，教科書に示してある観点で読み返している。(書く)
　〇　句読点や文字を正しく表記している。(知・理・技)
３　本時の指導
（１）目　標
　〇「見つけたよカード」に書いたことをもとに，一つの事柄を一文に書くことができる。
（２）研究の視点に関わっての工夫
　◎視点１－教材文「モルモットのもこ」を参考にしながら，「～は，～です。」という文の形をくり返し練習することで，主語を加えた文を書くことができるようにしたい。また，主語が分からない児童のために，具体的な主語を提示しておきたい。
　◎視点２－ペア学習での質問のやりとりや全体での学び合いの中で，自分が気付かなかった観察の視点について考えさせ，観察の視点が増えると，より分かりやすい文章になることを感じ取らせたい。

（3）展　開

	学習内容と活動	活動への支援（・）評価（◆）・視点（◎）
つかむ 5	1．前時の学習を振り返る 2．課題をつかむ 「見つけたよかあど」にかいたことを，ぶんにしよう。	・今日の学習は，「みつけたよかあど」を見ながら，お家の人がわかりやすい文を書くことを確かめる。 ・どんな動物のどんなことをおうちの人に教えたいか発表させ，学習への意欲を引き出す。
自分の考えを持つ 20	3．見通しを持つ （1）分かりやすい文の書き方を考える。 ・主語のある文にする。 ～は，～です。 ～は，～ます。 ・主語の後には，　，を文の終わりには，　。をつける。 ・一つのことを一つの文で書く。 （2）主語のある簡単な文の形を練習する。 4．自力解決する （1）視点ごとに文をつくる。 ①主語のある文にする。 ②句読点のある文にする。 ③各視点の書き始めは，一マス空ける。 （2）小さな声で読み，文を確かめる。	・「色」「形」「大きさ」「動き」「様子」などの観察の視点を確かめる。 ・教材文「モルモットのもこ」の例文と「見つけたよかあど」の言葉を使った述語だけの例文を比べさせ，述語だけでは分かりにくいことに気付かせる。 ◎教材文を見ながら，「～は，～です。」という文の形を繰り返し練習し，主語を加えた形の文に慣れさせる。 （主語の後には，読点（うなずき１回）を，文の最後には「～ます。」という形で句点（うなずき２回）を打つことを，うなずきながらの音読で定着させる。） （視点１） ・Ｔ１・Ｔ２は，作業の進まない児童に，「何が黒かった？」というように問いかけ，文作りの支援をする。 ・文章を書いたら読み返し，「正しい文の書き方」の項目にしたがって，字の間違い，助詞の間違い，句読点の打ち忘れがないか確かめさせる。 ◆「みつけたよかあど」に書いたことをもとに，原稿用紙に，主語に気をつけて，一つの事柄を一文に書くことができる。（ワークシート）
学び合う 15	5．みんなで学び合う （1）ペアになり，お互いの文を発表し合い，質問をしながら，「見つけたよかあど」に書きこみをする。 （2）ペア学習で付け足した事柄について，原稿用紙に文を書きたす。 （3）カードと紹介文をみんなで読み合う。	◎ペアになり，観点を決めて質問をしたり，答えたりしながら新しい観察の視点について「見つけたよかあど」に赤ペンで追加させる。（視点２） ・はじめに，Ｔ１．Ｔ２でやりとりのモデルを示す。 ・実物投影機を使い，友達の文章を見て，わかりやすい表現を見つけさせる。 ◎新しい書き込みについて紹介し合うことで，観察の視点を増やすことの大切さをつかませる。（視点２） ・友達の文章で，その動物の特徴がよく分かる表現をたくさん見つけさせ，文を書く楽しさを味わわせたい。 ◆ペア学習でのやりとりや全体での学び合いの中で，自分が気付かなかった観察の視点に気付くことができる。（ワークシート・発言・観察）
振り返る 5	6．学習を振り返る 7．次時の学習の内容を確認する	・「見つけたよかあど」に書いたことを「～は，～です。」という一文で原稿用紙に書くことができたか，文字の間違いなく文を書くことができたか，自己評価をさせる。 ・文章を書いたことについての感想を発表し合う。 ・次時は,書き出しと題名をつけて，文章にすることを伝え，完成への意欲をもたせる。